ポットポイント

ひめゆり

「沖縄・慰霊の日」は6月23日であり、沖縄戦はこの日に終了したとばかり思っていた。ところが8月15日の「玉音放送」の後も戦闘は続き、南西諸島の日本軍が全面降伏文書に調印したのは9月7日。沖縄戦が正式に終了したのは組織的な戦闘が終わってから何と2か月半もたった9月7日だという▼先日、梨田昌平監督作品の長編ドキュメンタリー映画『ひめゆり』を見た。これは2007年に制作されたもので、毎年、「沖縄・慰霊の日」にあわせて東京・中野にあるポレポレ東中野で上映されてきた。それがコロナの影響で6月の上映がかなわなかった。これを、何とか14年目の今年も上映を継続したいとする関係者の熱意が奏功して、9月7日を跨いで上映が実現したという▼15歳から19歳までの女子学徒隊22名の中で生存したのは22名。米軍の沖縄上陸を目前に控えた1945年3月23日から、6月下旬までの約3カ月の間、南風原の病院壕、首里にある司令部の崩落にともなう南部に移動しての病院壕、そして6月18日の突然の解散命令による米軍の砲火を潜り抜けながらの〝阿鼻叫喚〟。映画は生存者が現地を訪れ、米軍が撮影した戦闘フィルムを交えながら、その時の〝体験〟がせつせつと語られる。これら証言は重く、つらい▼終戦から今年で75年。戦争体験者の高齢化はすすむ。この映画は1994年に撮影を開始し、13年にわたって撮り続けてきた。証言するほとんどは70から80歳前後。話が可能なぎりぎりのところで収録したまさに貴重な記録といえる。本映画のチラシには「『忘れたいこと』を話してくれてありがとう」とある▼平和を叫び続けていくことは大事であるが、同時に戦争体験、被爆体験をしっかりと伝えていくことが欠かせない。

（土着菌）